

SKY-HI カリキュラムにみられる乳幼児期のリテラシー

佐藤正幸（筑波技術大学）

1. SKY-HI カリキュラムとは？

SKY-HI カリキュラムは、聾乳幼児の早期における教育は家族が中心となることを主な目標として、米国ユタ州立大学 SKY-HI 研究所にて構築されたものである。このカリキュラムの内容は、Volume 1 及び Volume 2 に分かれている。まず、Volume 1 は、初回の相談と家族支援、月齢0ヶ月から12ヶ月までの発達、乳幼児期の補聴器、人工内耳、コミュニケーションの基本問題、どのようにやりとりをするのか、（家族にとって）自然な環境というような聾乳幼児とその家族を支援するにあたって、基本的な情報を提供している。次に Volume 2 は、早期における視覚的なコミュニケーション、聴覚を通じた初期の音声言語、早期の聴覚学習、コミュニケーションの方法論、遊びと概念の発達、聾を併せ有する重複障害の子ども、シムコム、バイリンガルバイカルチャー、聴覚法と口話法、キュードスピーチ、最後にリテラシー（読み書き）を取り上げており、聾乳幼児とその家族がコミュニケーションなどやりとりを行う際、必要とされるスキルを紹介している。このカリキュラムの対象は、新生児聴覚スクリーニングで聾と診断された乳幼児を含む聾乳幼児とその家族である。本稿では、本カリキュラムの最後の章に位置づけられている乳幼児期のリテラシーについて概説する。

2. 乳幼児期のリテラシー

リテラシーは、学校入学時に始まるのではなく、誕生時にはじまるとも言われている。それ故に、生涯の最初の時期である乳幼児期は、保護者、家族が子どもに対してリテラシー学習の機会を設ける意味で極めて重要な時期である。特に、通常ならば自然に音声言語によってリテラシー学習が見込めるところを聴覚に障害がある乳幼児にあっては、見込めないことから、保護者及び家族が聾乳幼児のリテラシー学習の環境を整備する必要性が生じてくる。SKY-HI カリキュラムは、リテラシーの項で保護者及び家族に対してリテラシー学習の環境整備における支援についても重きを置いている。

SKY-HI カリキュラムのリテラシーは、生後0ヶ月から12ヶ月の聾乳幼児とその保護者及び家族を対象に、12の項目からなっている。その構成を以下に示す。

- 1) リテラシーとは？何故重要なのか？
- 2) 早期リテラシー学習の意義、豊富なリテラシー家庭環境、養育環境の整備
- 3) どのように早期のリテラシーを展開するか？
- 4) 読書の共有、何故物語を（子どもと共に）共有することが大事なのか？
- 5) 子どもと一緒に本を読もう（実践）
- 6) いつもリテラシー！
- 7) 子どものリテラシー学習に特に重要な言語ストラテジー
- 8) 言葉の単位に向けた支援（アルファベットの基本）
- 9) 心の理論と早期の言語発達
- 10) 心の理論と読み
- 11) 学校主導のリテラシーアプローチ

12) 児童文学の素晴らしい世界

3. SKI-HI カリキュラムのリテラシー

1) リテラシーとは？何故重要なのか？

まずリテラシーとは？ということを考えるにあたって、当カリキュラムは以下のことを強調している。すなわち、リテラシーは、アルファベットを識別する、綴る、句読点をつけるといったような読み書きの基本を単に学習することではない。むしろ、リテラシーとは、子どもがリテラシー学習を引き出せるような環境、つまり「リテラシー豊富な」環境にいることが大事であって、その中で成長すべきものである。そのためには、まず環境の整備が大事であることをあげている。

次にどのようにしてリテラシーを言語につなげていくかといこうについては、リテラシーと言語は基本的に同じものではないことを前提とし、子どものリテラシー環境をいかに整えるかによって個別にいくつかの方法が考えられるとしている。

そこで、聾乳幼児によって早期のリテラシーが何故重要であるかというになるが、このカリキュラムでは以下のように述べている。すなわち、

- ・乳幼児が成長するにつれて自然に入ってくる音声を聴きながら言語体験を積み重ねていくのに対し、聾乳幼児については、音声を自然に聴くという体験ができないことから、聴覚を介在する以外のリテラシーの環境を早期から整える必要があること。
- ・早期のリテラシー学習は聾乳幼児のコミュニケーション能力を高めるだけでなく、感情面、社会面の発達を促すこと。
- ・聾乳幼児の早期のリテラシー学習は、(視覚的に絵本などを) 提示したりすることによって、早くから読み書きに(子どもが) 関心を示すようになること。

をその理由としている。

また、リテラシー学習は家庭の中でごく自然にいつも行われているものである。すなわちリテラシーは家族生活のそのものと考えてよいであろう。それだけに聾乳幼児を取り巻く環境がリテラシー学習にとって充実するものとなるよう考慮する必要があるものと思われる。

2) 早期リテラシー学習の意義、豊富なリテラシー家庭環境、養育環境の整備

まず家族におけるリテラシー学習の目標について、いかにして、聾子どもにとって面白いかつ豊かな家庭でのリテラシー学習環境を創るのかを置いている。ここでは、早期リテラシー学習の基本、家庭におけるリテラシー学習環境の構築を取り上げている。

・早期リテラシー学習の基本

子どもは、基本的にリテラシーを学んだり、リテラシー学習することを楽しむために家族と関わる必要がある。そのためには、テレビ視聴、読書、ことば遊びゲームなどの方法が考えられる。また、家族とコミュニケーションする機会を多くもつ必要がある。そのためには、クレヨン、ノート、雑誌などを使うのもよい。さらには、リテラシー環境において子どもがよく知っている物(たとえば、牛乳のパッケージ、Tシャツ、道路標識、店のアーケードなどのシンボル)を利用するのもよい。

3番目に、実生活に基づいたリテラシー活動を基本とすべきである。このことは、「場を作る」のではなく「場を利用する」ことを意味している。

・聾乳幼児のための早期リテラシー学習の基本

早期リテラシー学習において何が重要であるかということについては言うまでもなく、人

生の早い時期における意味のある言語体験である。これまでの研究においては、音声言語もしくは手話によって言語能力が備わっている聾学生においては、この乳幼児期の言語体験が大きく貢献しているという報告がある。その基本として、聾乳幼児が言語（ここでは英語）を家族とのコミュニケーションの中で抵抗なく接するということがあげられている。そのためには、ASL、音声、音声および sign English、キュードスピーチのいずれかを使うにしても、家族の中における意味のある早期の豊富な言語体験が必要である。

さらには、会話の中における言語体験のみではなく、本などの印刷物を利用しながら、読みの体験の積み重ねも言語体験の1つであるとしている。

・家庭の中における豊富なリテラシー環境とは？

リテラシー環境を整備するからといって、新たにそのための材料を買いに行くことを意味しているのではない。家庭の中で子どもが日常接している物すべてがリテラシー教材なのである。そこで必要とされるのはこれらをどのように利用するかということである。そのためには、実際に家族が子どもの目の前で、物を使って見せたり、同時にあらゆる方法でその物の名前を提示したりしてみせる必要がある。さらには、一日最低1冊は絵本を共に読み聞かせすることも1つの方法である。

3) どのように早期のリテラシーを展開するか？

ここでは、リテラシーの中でどのように子どもが興味、関心を発展させるのか、どのようにして子どもが早期のリテラシー（学習）において学ぶのか、どのようにして読み書きを学び始めるのか、そしてどのようにして聾乳幼児が読み書きを学ぶのかについて取り上げている。

まず、どのように子どもが興味、関心を発展させるのかということについては、書かれたものあるいは書いたものの意味していることを理解し始める、その存在理由を理解し始める、どのようにして文字を含めて書かれるかに関心を示し始めるという経過をたどるとしている。

次に、どのように早期のリテラシー（学習）において学ぶのかということについては、以下のよう展開している。

- ・「どんなこと？」
- ・「冒険してみたい（未知のことをしてみたい）」
- ・「小さなものから多くのものが」
- ・「物語が作れるよ」
- ・「もしわからなかったらパパとママにきいてみよう」
- ・「一緒にやろう（読もう）！」
- ・「実際にやってみたい（物語の登場人物（みた、きいてままだ）を演じてみたい）」
- ・「(やったことを)みて欲しい！（認められたい）」
- ・「想像（予測）してみたい（大好きな物語を繰り返し読むことによって）」
- ・「本（印刷物）にきまりがあることがだんだんわかってきたよ！」

この過程をみると、子どもの「どんなこと？なぜ？」という疑問から始まって、本などを実際に読むことを両親と共有し、さらに実際に演ずることによって様々なことを理解、獲得していることを大事にしていることが窺える。

3番目にどのようにして読み書きを学び始めるのかについて取り上げている。ここでは、早期において読みと書きの発達が独立して生ずることはないとし、むしろこれらの発達が他の面での発達（精神面など）を高めるとしている。そして、読み書きは、家庭の中におけるリテラシー環

境の中で、子どもが自然に関心を持つことから始まる。その意味で我々はリテラシー環境の整備に留意する必要がある。

最後に聾児が、どのように読み書きを学ぶのかということについて、トップダウンおよびボトムアップの2つのアプローチから検討している。読みについては、印刷物（例えば本など）に描かれたものが何を意味しているのかを推測するために、彼らの頭の中にある情報を用いるトップダウンアプローチ、一方、音声と文字を照合させながら、句、文章、節というように単語を理解するボトムアップアプローチとしている。聾児は、この両方のアプローチを相互に用いながら、読みの学習を行っている。

書きについては、綴り、句読点、読みやすさ、大文字小文字の使い分けなどのメカニズムに関するボトムアップアプローチと、文章構成に関する考えのような内容面に焦点をおいたトップダウンアプローチがあるが、聾児の場合、前者の文章を構成するメカニズムに関するボトムアップアプローチについて、停滞することが多い。そこで、まずあらゆる方法で自分の考えを整理し、それをどのようにして自分の知っている言葉で表現するかというトップダウンアプローチの方法が考えられる。

4) 読書の共有、何故物語を（子どもと共に）共有することが大事なのか？

まず、一番目の理由として早期の読書の共有が聾児の言語発達を促すとしている。聾児に対して物語を読むということは、物語に出てきた新しい言葉を教えることになるとしている。その機会を多く与えるのは、読書いう場面を両親、家族などとともに共有することである。

2番目の理由として、早期の読書の共有が、聾児にとって後の学力を促進するということである。聾児の学力の増進が効果的に現れるためには、幼児期の一貫した読みの共有の経験が重要となってくる。

3番目の理由として、早期の読書の共有は、本に対する興味を促し、読む気にさせる。4番目に読書に対する楽しさを与えてくれるということである。

5) 子どもと一緒に本を読もう（実践）

これは、どのようにして子どもに物語（本）を紹介するか、子どもとどのようにして物語を共有するか、物語を共有するためにどのような活動するのかの3つの活動がある。ここでは、物語を共有するにあたって手話を含めた視覚的な方法をできるだけ取り入れることが推奨されている。特に物語を共有するための活動とは、実際に登場人物を演ずる寸劇を子どもと共にやることである。

6) いつもリテラシー！

ここでは、家族が、リテラシー経験及び活動を楽しむプランを立てるためのアドバイスを行っている。リテラシー活動を行うヒントとしていくつかの項目上げられている。その中のいくつかを紹介すると以下ようになる。

- ・クリニックなどに出かける時、本を持っていきましょう。待ち時間に子どもと本を読みましよう。
- ・行くところの写真を持っていきましょう（例えばファストフードショップなど）
- ・お買い物のリストを、新聞広告から切り抜いた絵などを用いて作ってみましよう。そしてそれに名前付けましよう。

- ・見たいテレビプログラムのリスト作りを相談しながら行いましょう。
- ・絵と音（擬声語・擬態語など）を関連づける遊びをしましょう
（例えばポップコーンーポンポン、サンタさんーホーホー、お化けーブー）

7) 子どものリテラシー学習に特に重要な言語ストラテジー

ここでは、家族が子どものリテラシー学習において特に重要ないくつかの言語ストラテジーを学び利用すること、そして様々なリテラシーに関連するものを用いたストラテジーを学び利用することを目的としている。すなわち、子どもと会話をする時、（子どもに合わせて）話しの内容を簡略化すること、興味深いかつ意味のある実生活での言語体験を提供すること、世界観を持たせるように援助すること、より成熟した言語に導くことなどである。

8) 言葉の単位に向けた支援（アルファベットの基本）

ここでは、家族が子どものアルファベットに対する関心を促すためにどのようにしたらよいか、手話を家族の言葉としている家族のために、子どもがマニュアルアルファベットに関心を持つためにはどのようにしたらよいかについて記している。特に後者については、手話からまず入り、次に指文字で表し、そして書記言語として紙に書き留めるという過程が推奨されている。

9) 心の理論と早期の言語発達

子どもの早期リテラシー発達の重要な側面は心の理論の発達である。ここでは、家族に対して心の理論の概念に関する情報を提供している。すなわち、

- ・子ども自身が心の理論を持っていると話し手が何を考えているのかを話し手の話の中で予測できるということ
- ・心の理論は、社会的スキル・自分自身と他人の情緒的理解が促進されることで重要であること
- ・言語と心の理論との関係については、よりよい言語スキルを持つ子どもは、より成熟した心の理論を持つことがよくあること

という情報である。

10) 心の理論と読み

ここでは、読みが物語の登場人物の考え方及び行動の理解にどのように貢献するか、読みがどのように心の理論を育てるか、どのような言葉かけが子どもの心の理論を育てるかについて家族に対しアドバイスをしている。特に、読みがどのように心の理論を育てるかということについては、読みは他の人々がどのように思い、感じているのか知ることができる、読みは、人々がどのように感じ思っているのかを、何を感じ思っているのかにつなげることができるというような解説を行っている。

11) 学校主導のリテラシーアプローチ

ここでは、家族に対して学校におけるリテラシーを紹介している。その内容としては、聾乳幼児に対する読書へのアプローチ、語彙のスキル、家庭でのリテラシー学習をどのようにして学校へつなげていくか、学校で用いられる読みの教材である。

12) 児童文学の素晴らしい世界

最後の項目となる本項目では、子どもにとって良い本とは、子どもが好きな本が良い本なのか、リテラシーのメリットとは、年齢に応じた本の選択について実例を織り交ぜながら解説している。

4 結語

SKY-HI のカリキュラムはテキストに留まらない。これらの内容がある家族をモデルにしてビデオを作成して、わかりやすく解説している。特徴としては、前述のとおり、新たに何かを用意するのではなくて、今、家庭にあるものをそのまま利用する、すなわちどのように学習に活かすかが大きなポイントとなってくるものと思われる。